

号外

神戸大学ニュースネット

NEWS NET

©神戸大学ニュースネット委員会 <http://home.kobe-u.com/top/newsnet/>
関西学生報道連盟共同編集室=〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24 タイニビル4階
電話 06-6307-1315 FAX 06-6829-6353 メール info@unn-news.com

携帯 HP

阪神・淡路大震災 19年

震災後生まれの学生も

1995年1月17日に阪神・淡路大震災が発生してから19年。年月を重ね、神戸大学は昨年4月、ついに震災後に生まれた人を学生として迎えることとなった。そんな中、東遊園地(神戸市中央区)では今年も慰霊祭「1・17のつどい」が行われた。

【1月17日 神戸大NEWSNET⇨UNN】



凍える寒さの中、胸に想いを秘めて竹灯籠の炎をみつめる女性
(1月17日・東遊園地で 撮影⇨松田雄亮)

5時46分。東遊園地に集まった人々は一斉に黙とうした。「伝えよう」「夢」などメッセージが書かれた竹灯籠の火が、祈りをささげる人々を照らしていた。

竹灯籠の火を見つめていた早川ひかるさんは、今回が初参加。神戸市出身の大学1年生だが、1995年に生まれたため震災を経験していない。震災のことは、学校の道徳の授業や、親からたくさん聞いたという。実際につどいに参加し、祈りをささげる多くの人々を見て「自分たちの神戸での生活は、この人たちに支えられてきたんだなあ」としみじみ感じたといい。

黙とうの後には、慰霊と復興のモニュメント前で多くの参加者が耳を傾ける中、弟の森渉さん(当時⇨法・4年)を震災で亡くした歌手の森祐理さんが「しあわせ運べるように」を歌った。

小学校でこの歌を習った長田区出身の田代将吾さん(発達・2年)は、そばに立っている人が森さんの歌に合わせて口ずさむのを聞いていた。20歳になったのをきっかけに、初めてつどいに参加した。

「地元出身というだけで忘れちゃいけないと思っていた。ここに来て、辛い思いもたくさんした人々が、忘れないようにと1年に一度ここに集まるのだな、と実感した」。